

民主
PRESS MINSHU

号外 静岡3区版

平成25年5月25日

民主党プレス民主編集部

〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

明日の日本 生活が第一

～ 協同・連帯 共生・安心 ～



前衆議院議員 民主党静岡県第3区総支部

小山のぶひろ 氏に訊く

「選挙で応援して貰えなかったからといって必要な事業も行わないとか、選挙で応援してもらったからといって無駄な事業を行うとか、そういうことをしてはならないのです。自分の利益や選挙の応援の有無にかかわらず、公平・公正な態度で、必要なことは行い、不必要なことは行わないというのが、『与党の矜持』『民主党の矜持』です」。当時の鳩山総理が浜松で行った演説の中の言葉です。当たり前の内容です。でも、私には胸に響くものがあり、その時に自然と涙が溢れそうになったことを覚えています。

以来、この言葉をずっと胸に抱いて三年三カ月の任期の間、仕事に取り組みました。選挙が終わったら、それこそ「ノーサイド」からのご要望であったにもかかわらず、団体からのご要望であっても、それが必要なものであれば、全力を尽くして参りました。中には、ご要望のハードルが高くて、あるいは私の力不足により、実現できないものもありましたが、施設の立替、新法の制定、被害補償、地域のインフラ整備など、基本的にしっかりと対応してきたつもりです。また、一方で、健全な批判精神を失うことなく、自分と違う意見に敬意を持ちつつも、自分の意見・信念については、主張を貫い

公平・公正な政治姿勢こそ、本来の「民主党の矜持」

をそれなりに案じて、囁いてくださった方もいらつしやいました。また、私からすれば意地悪だなど思うことを一部の人たちからされたこともありました。「なんであんな人たちの言うことに耳を傾けるんだ！」と自分に近い人達から言われたこともありました。しかしながら、住民の皆様のことを思えば、利用者の方のことを思えば、地域を愛していれば、必要な要望にお応えしない、という選択はありえないのです。「公平・公正な姿勢を持つと、国会議員というものは何と立場が弱いものか！」と思ったこともありました。それでも、私は、公平・公正な姿勢、冒頭の「与党の矜持」を概ね貫き通し、良かったと思っております。

党派・地域に関係なく、自分の気に入らない議員や首長だからと言って要望を受け付けないこと、自分の気に入った議員や首長だからといって余分な予算をつけてしまうことなど、不公正な姿勢を持つ人がいることを耳にすることがあります。これらは、まさに古い政治・権威主義的な政治であり、「驕り」の象徴、無駄と癒着の温床です。党派や政策・理念以前の問題です。

ともあれ、私は、捲土重来を期すことが出

前衆議院議員 小山 展弘

民主

PRESS MINSHU

号外 静岡3区版

平成25年5月25日号

民主党プレス民主編集部

〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

明日の日本 生活が第一

がんばれ! コヤマくん物語

生まれたときから政治家!



JAバンクでの5年間



いよいよ政治の道へ!



お茶振興法、そしてこれからも



携帯メールマガジン配信中

小山のぶひろの日本や郷土への想い、政治への熱い想い、活動報告などを、メールに託してお届けいたします。

右のQRコードよりご登録いただくか、下記のメールアドレス宛に直接、空メールを送信いただいても登録できます。
※既にご登録の方は操作不要です。

n-koyama@67827.r.at-ml.jp



小山展弘氏 初の出版

11/30 発売

小山展弘 著



脱占領時代の 対中政策

戦後の日本は中国と
どう向き合ったか

健全なナショナリズムの育成、健全な国民意識の醸成が必要。
1950年代の戦後政治家の外交政策、姿勢は、現代の我々に多くの示唆を与える…歴数少ない特殊な状況、冷戦構造という国際環境の中で行軍を冷静に検討しつつも、必死に日本の自立を求め、日本の利益の最大化を求めた。1950年代の日本のナショナリズムは、アメリカと同じアジア政策を行うことに満足できなかった…
——本文より

衆議院議員
小山のぶひろ

志学社